

βασιλεία τοῦ θεοῦ

バシレイア トー セオー

知っておきたいキリスト教のことば (41)

神の国 かみのくに

「神の国」とは一体何でしょうか。「国」といいますと、日本やアメリカ、中国といった具合に、領土を持ったある範囲のことを思い浮かべるかもしれませんが。しかし聖書に出てくる「国」という言葉は、「支配」という意味も持つ言葉です。したがって「神の国」というと、神さまが支配される場所という意味を持ちます。

イエス様は神の国について、宣教されました。またたとえ話を用いて、神の国を語りました。からし種やパン種、またぶどう園の労働者のたとえなどを用いて、イエス様は神の国を伝えようとされました。

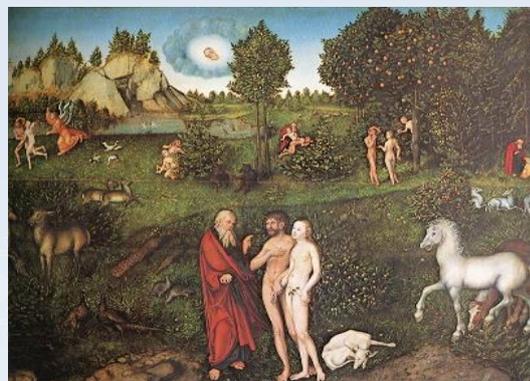
さて、それでは神の国はいまどこにあるのでしょうか。イエス様はその公生涯の初めに、「神の国は近づいた」(マルコ 1:15)とされました。神さまによる支配が、この世にやってきたのです。

そしてイエス様はこうも言われています。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(ルカ 17:20~21)と。

完全な神の国の到来は、イエス様の再臨を待たなければいけません。しかし、イエス様がこの世に来られたことによって、神の国はすでに来ているのです。神さまと人間とが正しい関係になるために、神さまはイエス様をこの世に遣わされました。そしてイエス様のご生涯、十字架による死、そして復活によって、神の国はわたしたちの間にあるのです。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ 6:33)。神さまの愛の支配が、わたしたちを包み込んでくださいますように。お互いがお互いを本当に大切にしよう世界が、一日も早く実現しますように、祈り続けていきたいと思えます。

次回は「神の子」です。お楽しみに。



「エデンの園」

ルーカス・クラナツハ

(1472~1555年)

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

(マルコによる福音書 1章 15節)

